

消防局の日常

出場がない日も、当然彼らは休んでいるわけではない。
 事務処理、予防査察などの通常業務、日々の訓練やトレーニングも欠かせない。また、住民と一体となった避難訓練や救命講習、火災予防イベントなどの啓発活動も大切な仕事である。
 地域や子どもたちとの触れ合いにも積極的で、祁答院分署の防壁画のリニューアルで郷土愛に満ちた防水壁画を完成させてくれたことなど、さまざまなことに取り組んでいる。



▲救急の日「集団救急事故訓練」



▲訓練中の1枚



▲完成した祁答院分署の防水壁画と生徒たち



▲壁画には制作した4人の名前も

暮らしを守る消防車両たち

●救助 44 件

●救急 4330 件

●火災 39 件

平成30年出場回数

水槽付き消防ポンプ自動車

通称タンク車と呼ばれる車両で、2,000リットルの水を積むことが可能で、水利(消火栓、防火水槽、自然水利の川、池、海、プールなど)がなくても、火災現場に到着してからの迅速な消火活動が可能。



救助工作車

さまざまな事故や災害の現場で救助活動に対応するため、ウインチ、油圧発生装置、夜間活動のための照明装置などを装備し、重量物排除器具や切断器具(交通事故などで扉の開閉や切断などに使用)などを積載している。



はしご付き消防自動車

中高層建築物の消火、救助活動を行うための車両で、地上35メートル(ビルの10階建て相当)まではしごを伸ばすことができ、火災などでビルの高層階に取り残された人の救助や、高所からの放水活動などを行う。



▲水引小学校児童の西部消防署見学

さらには、将来、地域の防火活動の担い手となる子どもたちの防火教育のため、消防庁舎での社会科見学や5つの災害体験が可能な防災研修センターを利用した「初期消火選手権」なども実施した。
 このように消防局は、日々の業務だけでなく、地域や子どもたちに密接に関わり、時には防災の大切さを伝え、時には一緒に防災を考えているのだ。



▲少年消防クラブ研修会



▲初期消火選手権に挑む子どもたち



▲はしご車体験搭乗



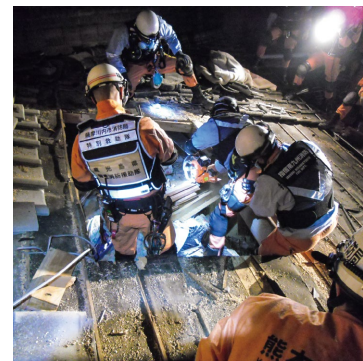
高規格救急車

事故で負傷した方や急に病気になった方を医療機関に搬送するため、さまざまな症状に対応した応急処置を行うための高度な救急資機材を搭載している。



支援車

大規模な災害などに備え総務省により全国に配備された緊急消防援助隊に出場する車両で、東日本大震災、熊本地震に緊急消防援助隊として出場。災害現場での長期間の滞在を支援するための物資を積載、装備している。



▲現地における救助活動



▲被災地支援に駆け付けた消防車両

支え合うことの大切さ

消防活動は、市内のみにとどまらず、熊本地震など、国内での大規模災害発生時には、災害支援として緊急消防援助隊を編成し、現地へ赴き、どんなに過酷な状況にも負けない強い気持ちを胸に救助活動を展開する。一人でも多くの人を救いたいという思いは全国の消防士、誰もが同じ。
 そのために、県や市町村という枠さえも越えて支え合う。それが消防士の優しさや強さだ。